２０２６年
３４０号
９月１６日（水）

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
（越労連内）
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

「暑気払い＆誕生会」
美味しいカレーとビールで夏を満喫

８月31日（月）弥十郎自治会館で今年の「暑気払い＆誕生会」を行いました。参加者は25名、春の「花見＆誕生会」は雨天中止になったため３月から８月生まれの方に誕生花を差し上げましたが、対象者は７名でした（下段写真参照）。

今年の夏も世界中で異常気象が報じられています。

日本では暑さと雨が繰り返すことで体の調子が悪くなる「多雨疲労」という言葉が初めて報じられました。

手伝える方と役員は弥十郎自治会館に９時半に集まりました。今回のメインはカレーです。調理室で活躍していただいたのは宮下さん、大滝さん、不破さん、大木さんです。当日のアルコール、飲み物、つまみ、果物などの買い出しに和田さん、吉田さん、高さんが向かいました。

その他の人は会場の設営、バス停での案内を担当しました。11時過ぎると、参加者がバスや自転車を利用して集まりはじめました。





尚、参加者の方々からは以下の差し入れをいただきました。足立さんと福嶋さんからは５００円ずつのカンパを頂きました。和田さんからペンライトとワイン２本、石山さんから缶ビール６本、川原さんから自宅の畑で採れたゴーヤ、キウイ、ナス、ニラ、大滝さんからはカレーでは必須のご自分で漬けたらっきょう、中尾さんからお菓子、高橋さんから蛍光管、ありがとうございました。

12時に足立さんの名司会で「暑気払い＆誕生会」を始めました。和田支部長の開会の挨拶の後、飛山さんの乾杯の音頭（上段の写真参照）で暑さを吹き飛ばすビールを飲みほしました。美味しい食事を食べ、飲み物で喉をうるおした後、一人ずつ自己紹介を兼ねて近況報告を行いました。

久しぶりに顔を見せられた方、はじめて見えた方、またハーモニカの演奏も飛び出しました。最後に誕生花の贈呈です。この後、差し入れでいただいたものを景品に「じゃんけん大会」を行いました。

全員１品は獲得しました。

皆さん、秋の「いも煮会＆誕生会」でまたお会いしましょう。

（五十嵐）



3月から8月誕生

＜前列左から＞
中島　一男さん
池ノ谷眞里さん
飛山　幸夫さん
吉田　正美さん
＜後列左から＞
高橋　三郎さん
島根　皓夫さん
大木　和男さん

点晴
お米の価格を考える

農水省は９月１日に25年産米を21万トンの政府備蓄米を買い戻すこと発表しました。

23年から続いた記録的猛暑で、米の不作や品質低下が起こり、24年春ごろから米不足の状態になり、価格が高騰。『米は足りている。目詰まりしているだけだ。』と繰り返し、25年２月に備蓄米の放出を決め、合計59万トンを放出しました。備蓄米の買入れは中止され、現在の備蓄米は32万トン、15万トンは飼料用などのため実質17万トン。今回決定した25年産米21万トンと26万トンを買い戻しても、在庫は59万トンです。備蓄米は、常時１００万トンが適正とされています。備蓄米の買入れ価格を鈴木農相は「入札業者が提示する価格で決定する」と述べています。

新潟JAは農家に支払うコシヒカリの26年産概算額60kg１万８５００円で、１万５０００円の所もあるそうです。

８月10～16日の全国スーパーの平均価格ほ５kg３１９１円で25年の価格から１０００円以上下がっています。さらに生産コストの上昇で農家を苦しめています。

８月28日、農民運動全国連合会（農民連）は放出した備蓄米59万トンを買戻し・買い上げをおこない、中止した25年産と26度備蓄米を買い上げること。４月に公表したコスト指標（２万０５３２円／玄米60kg）を最低限保証するため、不足分を生産者に対して補填すること。米の流通・小売事業者も高値で仕入れた25年度産米を安く売らざるを得ず、苦境に陥っている。25年度米の暴落によって打撃を受けている事業者に緊急の支援を行うなど農水省に要請し、抗議行動をしました。

私達も、「政府は減反政策をやめ、価格保障をし、農業者が安心して米づくりを続けられ、すべての国民が手ごろな価格で国産米をたべられるように、米の需給や価格の安定に責任を持つ農政に転換」と声を上げましょう。

（川原利雪）

＜年金受給日宣伝＞
１０月１５日（木）　南越谷駅前広場　　１０時３０分～１１時３０分